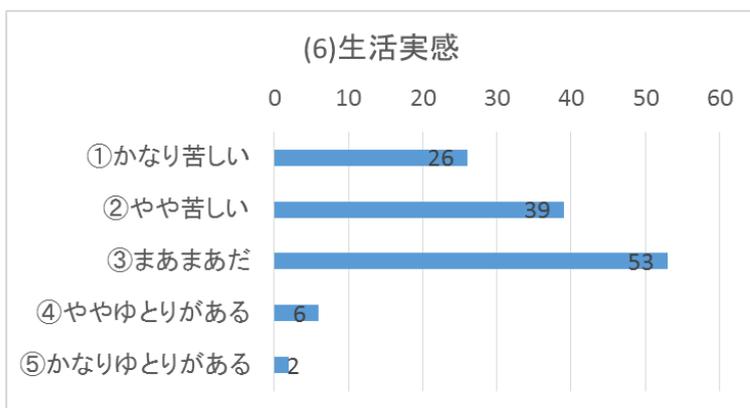
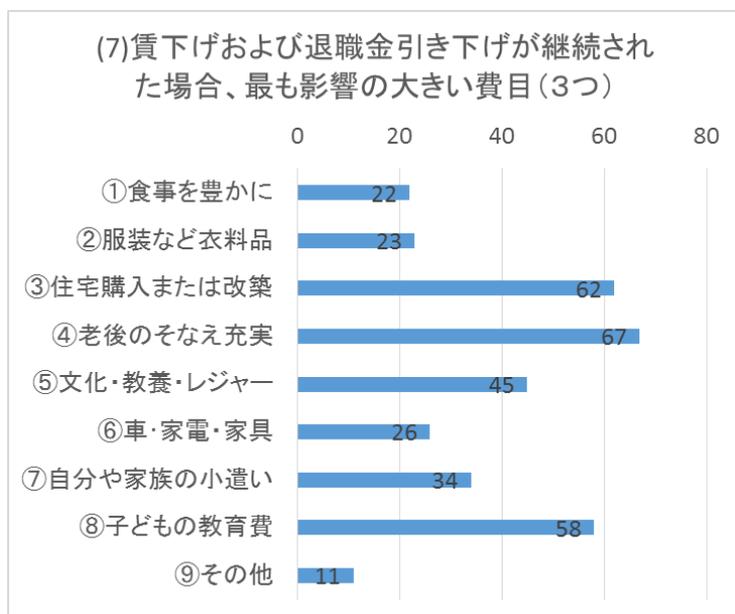


2013 年度給与削減および退職金減額に伴う実態調査アンケート結果（抜粋）

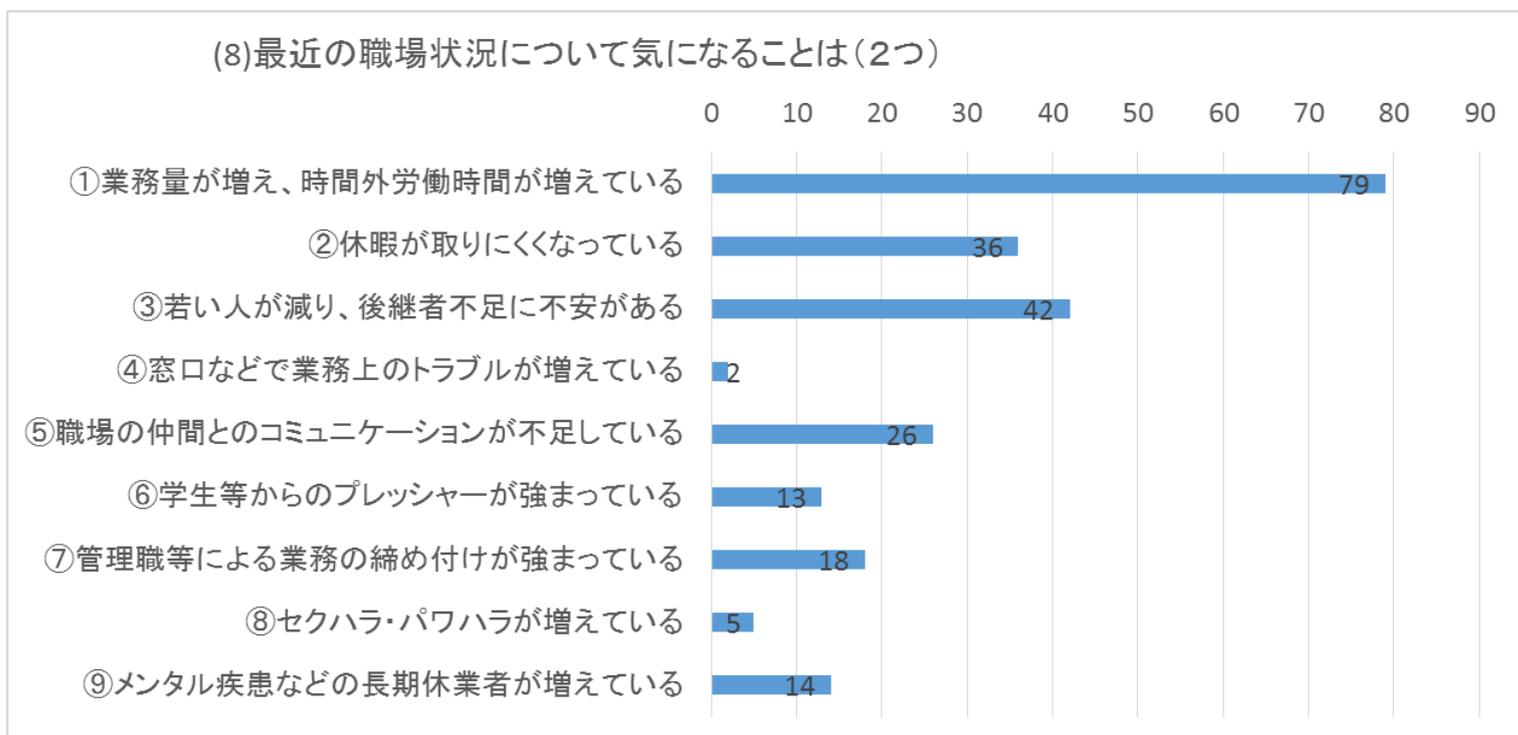
(6)生活実感



(7)賃下げおよび退職金引き下げが継続された場合、最も影響の大きい費目(3つ)



(8)最近の職場状況について気になることは(2つ)



(9)自由記述

- ・退職金減額は、どう見ても不当である。退職金は賃金の後払いであることを無視するなど、反道徳な行為であり、経営者としてのモラルの喪失だという自覚をもってほしい。
- ・((7)の⑨の回答についての補足説明) 自費で研究費を補っている分
- ・私立大学の金銭の見返り以上に魅力的な研究・教育環境という選択肢が危うくなるほど、給料が減っていると感じます。
- ・阪大で最近年俸制教授のことが報道されましたが、その際教授の平均年収が1100万円だとされていました。三重大との差がどうしてあるのか不思議です。
- ・(6)生活実感につきましては、現時点では③ですが、子どもの成長に伴い②や①を選ばざるを得ない状況となるように思います。
- ・ここ数年、給与削減や退職金減額等、一方的に決められることが多く、不満を感じている。もっと現場の教職員の話に耳を傾けてほしいと思います。
- ・((6)の①の回答について) 自分自身および遠距離で暮らす家族の医療費や介護等に予想外の負担がかかっている。((7)の⑨の回答について補足説明) 教育研究に関わる投資の費用。看板と中身にギャップがありすぎて困惑している。(中略) 学生に影響を及ぼす教員の職場の状況を改善し、どんな立場の人でも生き生きと働けるようにしてほしいと強く願っている。昔より厳しい労働条件にある現在、なおさらセクハラ、パワハラ、モラハラが横行しないよう、教職員が人間らしい生き方ができるような、そしてそのことで学生にも良い影響を与えられるような職場の状況へ改善してほしいと切望している。
- ・小さな業務が少しずつふえて、落ち着いて研究する時間がまとまって取れないのが困る。
- ・基本的につつましやかな生活を送っている。共働きの為収入には不自由はないが3人の子どもの教育費がかさむ。給与減額、消費増税、高校無償化見直し、物価高騰、(ダブル)2パンチがおそろ。国は「金持ち優遇」しか考えていないように思える。庶民には苦痛を強いてばかり。これから格差拡大就職難で若者は「国防軍」に入るしかない、そんな日が来るのが怖い。
- ・震災を理由とする賃下げには反対しにくい空気があった。しかしその後さまざまなところで震災予算の転用や使い残しが明らかになっている。賃金削減で浮いた金はどこへ行くのか？より厳しい監視が必要だと思う。
- ・(7)(8)についてはどれもあてはまります。給与削減で、業務量が増え、二重で給与が下がっています。研究に割ける時間も減っています。また、家に帰っても、睡眠時間を削って仕事をしています。
- ・予想外の多額の給与削減により、老後の備えへの不安も大きいですが、毎月の家計も赤字で、来年度以降もこの状態が続くなら、ローン返済中のマイホームを手放さなければなりません。精神的にもプレッシャーが強くなり、仕事量が増えているにも関わらず、報われ感が乏しくなりました。今後、優秀な人材を確保するためにも、給与削減と退職金減額撤廃を強く求めます。
- ・私たちの生活を守っていただけたら…
- ・安心してすごせ、生活できる環境を願っています。
- ・((7)の回答③に「ローンの支払い」の追記あり) 遠方からの人事交流で待遇(給与や手当)が悪いので魅力を感じない。
- ・現在の状態では、満足に生活をしていくことができず、困っています。早期改善をお願いします。
- ・給与削減及び退職金減額は教職員の精神的な余裕をなくすことにつながるので、絶対にやめてほしい。
- ・((8)の回答に⑨の追記あり) 給与の減額には、ある程度理解はできるが仕事量が増加の一途。教育の時間は増加するが、研究時間は減少の一途。この状態では本大学の生き残りは困難。希望が見えない。
- ・震災復興のための給与削減は2年間と聞いている。その後には確実に削減をなくすように強く求める。